



収益事業にふさわしい体制へ

昭和27年7月4日に認可を受け、今年で65周年を迎えるボートレース津は、この節目に地方公営企業法を財務適用し、「現金主義会計」から資産の状況を把握できる「発生主義会計」へと移行しました。

生まれ変わったボートレース津は、3つの柱を基本方針としています。1つ目は、公営企業として津市財政へ貢献し続けること。2つ目は、ファンの皆さんに楽しんでいただくこと。そして3つ目は、さらなる経営基盤の強化を図り、長期的に安定して収益を確保するための企業風土を、職員一丸となって確立することです。

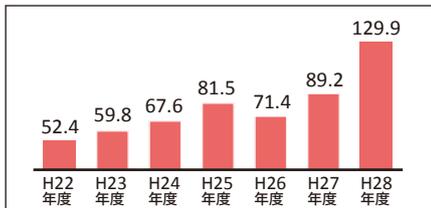
そのための基盤であるボートレース津の財務諸表の一部を、ここで紹介します。

形態別売上と収益の推移



電話投票

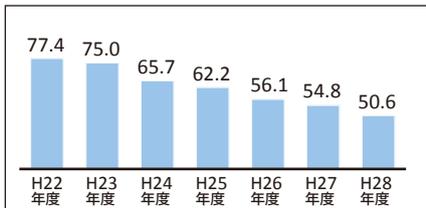
単位：億円



電話やスマートフォンなどによる購入売上。平成27年12月のウェブサイトリニューアルに伴い、売り上げが247% (H22年度比)と大幅増加。

本場売上

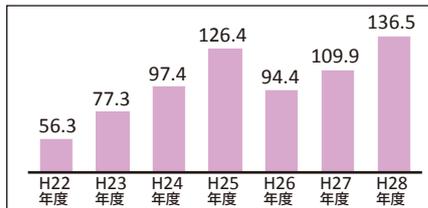
単位：億円



ボートレース津と施行者であるミニポートピア名張、チケットショップ養老での売り上げ。全国的に、ボートレース場への入場者数も減少傾向にある。

委託売上

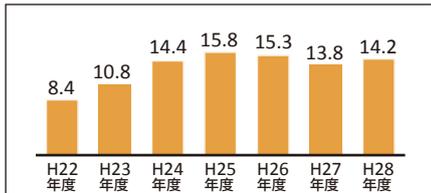
単位：億円



ボートレース津で開催したレースを他のレース場や場外発売場で発売している売り上げ。発売場数の増加により、売り上げも増加傾向にある。

受託収益

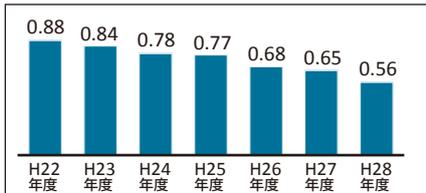
単位：億円



ボートレース津以外のレースを外向発売所津インクル等で発売した利益。最大7場売りに変更するなどして、売り上げが約169%(H22年度比)と増加。

入場料

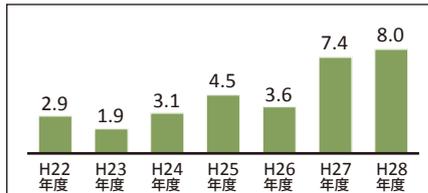
単位：億円



入場料と有料指定席の合計で、63% (H22年度比)と減少。今年2月の大型モニターとプレミアム指定席の設置や、分煙化により、誰でも楽しめる施設に整備。

当期利益(企業会計に換算)

単位：億円



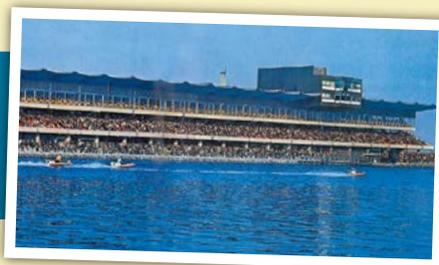
グレードレースの獲得や場外発売場2場設置により、平成28年度は増収・増益を見込み、経営は改善傾向にある。

写真で見るボートレース津の歩み

昭和27年 岩田川河口でスタート
戦後復興の財源のために!



昭和44年 藤方に移転
新しいレース場で心機一転!



平成12年 ツキードーム登場
女性や若者の入場者数が増加!

